

《みんな 元気に 「わかった！」「できた！」》

祝！創立90周年！

● おおさかしりつきたつもりょうがこう がこう
● 大阪市立北津守小学校 学校だより

平成27(2015)年12月24日

とくべつこう うんてい かん けいかくちゅうかんひょうか
特別号(運営に関する計画中間評価 他)

こうじょう なかたにかずひろ
校長 中谷和博



「運営に関する計画」の中間評価を行いました

○ 4～5月に策定した、「運営に関する計画」(今年度の本校の教育実践の目標)、その中間評価を行いました。また、11月16日(月)に第2回学校協議会を開催し、委員の皆さんにご意見をいただくとともに承認されました。中間評価の概要をお知らせいたします。

なお、今年度は3年間の中期目標の最後の年のため、中期目標と年度目標がほぼ同じのものとなります。そのため年度目標の評価が中期目標の評価を兼ねます。また、視点「学力の向上」については、3学期に実施する「しんだん」の結果をもとに評価しますので、中間評価は行っておりません。

詳細は、本校ホームページの「配布文書・学校評価」の欄をご覧ください)

【学力の向上】について

○ 現状と課題

- ・学力・学習状況調査の正答率では、大阪市や全国と比べて下回っている。
- ・自分の考え方や意見を交流し合える授業づくりを進めている。
- ・今後、「言語活動」の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ・学習資料の工夫・作成、体験的活動や「本物にふれる」活動、自主学習の充実
→ 基礎基本の定着、知識や技能の習得と活用とを図る。

○ 中期目標・年度目標

- ・国語科・算数科「しんだん」
…大阪市平均の80%以上の正答率のある児童を9割以上にする。
- ・アンケート…「(国語科・算数科の)授業がわかりやすい」という回答
保護者：80%以上 児童：90%以上
- ・全国学力・学習状況調査の質問紙調査で、理科の勉強・授業が「好き」「よく分かる」と答える児童の割合を、平成24年度より向上させる。

〔目標達成のための取組みについて〕

①各種研究・研修の充実について

言語活動を基盤に、音楽科「歌唱」の研究を深め、児童の表現力を高める。

評価

B

○ これまでの進み具合

- ・予定通り、歌唱の研究授業を行っており、年度末には達成の予定です。
- ・歌唱に力を入れることで歌うことを楽しむ児童が増えてきています。
- ・教員の指導力向上のために、定期的に研修会(実技・討議会後)を行っています。
- ・音楽集会も定着しはじめ、みんなで歌う機会も増えてきているので、歌うことの楽しさ

や、自信にもつながりはじめています。

○ 今後の改善点

- 音楽科の学習の時間以外にも歌唱に関わる取り組みをすすめています。
(後期はぐんぐんタイムにも取り入れていきます)
- さらに指導力を向上させるため、研修会を定期的に行います。
(オルガンの使用の仕方、ICTを活用した指導方法なども含めます)

② 教育環境の整備

落ち着いた雰囲気の中で学習し、達成感を感じ取ることができますよう、
学習環境のユニバーサル化を図り、インクルーシブ教育を推進する。

評価

B

○ これまでの進み具合

- 教室や校内の掲示物の工夫をし、どの児童にもわかりやすい環境整備に努めています。
(ICTやイラストなどで伝えたり、教室前面の掲示物を最小限に抑えたりしています。)
- 視覚的な表示を多く取り入れ、誰もが一目でわかる工夫に取り組んでいます。
- 気持ちが切り替えられるクーリングダウンの教室を配備、児童一人一人に応じた支援の方法を教職員で話し合って進めています。

○ 今後の改善点

- 学習環境のユニバーサル化について、教職員がどのような工夫をしているのか、紹介し合ったり、共通理解を図る機会をもうけたりします。
- 校内で研修会を開いたり、他で行われる研修会に参加したりして、教職員がユニバーサル化や、インクルーシブ教育についての理解を深めるようにします。
- 最終評価に向けて、年度末アンケートで80%以上にするにはどのような手立てがあるのかを考えます。

〈言語力や論理的思考力〉

児童の言語力や論理的思考力を高めるために、学校図書館の環境整備を行なう、図書活用の充実を図る。

評価

B

○ これまでの進み具合

- 図書室の環境整備を行なっています。レイアウトがとてもわかりやすく、児童だけで本が見つけやすくなりました。
- 公立図書館から本を取り寄せて調べ学習や、読書の時間に活用しています。
- 毎朝、読書タイムや読み聞かせをして、読書の時間を確保し、本に親しみを持たせられるようにしています。

○ 今後の改善点

- 学校図書館の本の冊数を数年計画で増やしていくようにします。
- 調べ学習で活用する機会を定期的に設けていくようにします。



〈ICTを活用した教育の推進〉

ICTを各教科の学習活動に効果的に活用し授業を実践する。

※ ICT…Information and Communication Technology (情報通信技術)

評価

B

○これまでの進み具合

- ・デジタル教科書や、書画カメラを使って指導しています。視覚的な理解が深められています。
- ・ICTを使用することで、具体物の操作を簡単に行うことができています。
- ・児童が学習の振り返りを発表するときに使っています。わかりやすくすすめることができます。

○今後の改善点

- ・プロジェクトや書画カメラの、より効果的な活用の仕方を研修します。

【道徳心・社会性の育成】について

○現状と課題

- ・自尊感情の低い児童を中心に、一人一人に関する多面的な理解をさらに進める。
- ・計画に基づいて、人権教育の推進に努め、保護者・地域と連携しながら成功体験を積み重ねていく。
- ・努力や結果を他者から認められ、自尊感情を高めることができるようにする。

○中期目標・年度目標

- ・アンケート…「自分のことがすき」「違いを認めあうことは大切」を90%以上
- ・遅刻する児童の割合を、昨年度より減少させる。

〔目標達成のための取組みについて〕

〈人権を尊重する教育の推進〉

「ひと・もの・こと」と出会い、豊かな感性、違いを認め合い、
人権を大切にして行動できる態度を養う。

評価

B

○これまでの進み具合

人権総合学習年間計画に沿って1、2学期と地域・関係諸機関と連携しながら交流や見学、ゲストティーチャーを招いての実践を通して、多くの人と関わることで豊かな人権感覚を育むことができるよう推進しています。

障がいのある方との交流や車いす体験等の実際の経験を通して、色々な状況におかれている方の生活や思いについて考えることはでききましたが、お互いの違いを認め合うには今後も継続した指導が必要であると考えます。

Q-Uについては、1学期に実施し、実施方法から分析方法に至るまでの研修を行いました。学級集団だけでなく、集団における個々の関係等も分析することで、クラス運営の一つの指標とするとともに、担任・担当で配慮が必要な子どもへのケアや対応についても話し合いました。3学期にはもう一度実施し、これまでの取り組みを振り返るとともに次年度に向けて引き継ぎの機会をもつ予定です。

○今後の改善点

小規模校ゆえに、より多くの人の出会いを大切にする意味でも、引き続き様々な体験活動を計画していくとともに、子どもの実態に即した学習計画に見直していく必要があります。加えて、学習した内容が日常生活に活かしていけるような取り組みを今後も重ねていきます。

Q-Uにおいては、1学期の結果を分析して、どういう手立てがあり、それ以降の集団育成にどう活かされたかを振り返り、次回の結果と比較・分析することで更に集団として高めていくと考えています。また、学校全体で取り組んでいくために、それぞれの学級だけでなく、全体としてどういう方向で集団を育てていくのかを共通理解して取り組んでいきたいと考えています。

〈学校・家庭・地域の連携の推進〉
遅刻気味の児童への支援、家庭への連絡、保護者への協力の要請などを行う。

ひょうか
評価
B

○ これまでの進み具合

子どもだけでなく、家庭とも連携しながら遅刻の改善に向けて取り組んでいます。学級においても、「時間を守ることの大切さ」や「できることは自分ですること」を伝えてきた結果もあり、遅刻の数は減少しています。しかし、遅刻する子どもが固定化しつつあるので、引き続き家庭と連携しながら継続した指導・啓発が必要です。

○ 今後の改善点

子どもの指導だけでなく、保護者とも連携しながら遅刻を減らしていくように、継続して指導・啓発に努めています。

Q-Uとは

Questionnaire – Utilities (楽しい学校生活を送るためのアンケート)の略。
学級集団の状態や、子ども一人一人の意欲・満足感などを測定できるとされる。

〈安全教育の推進〉

保護者・地域・関係諸機関と連携しながら、防災教育・防犯教育・交通安全教育・情報教育などを行い、安全への意識を高めるとともに、緊急時に応する能力の基礎を養う。

ひょうか
評価
B

○ これまでの進み具合

年間の計画に基づいて、火災、台風を想定した避難訓練を実施しました。地域・保護者・関係諸機関も含めて地震・津波に対する避難訓練を実施しました。子どもだけでなく、保護者や地域にも災害に対する意識は少しづつ高まっています。雨天決行で訓練を実施したことは、色々な状況下での訓練の必要性を考慮しても意味のある内容となりました。

○ 今後の改善点

引き続き安全への意識や緊急時の対応能力を高めていくよう、計画的に実施していくとともに、各学年に応じた防犯教育や、教職員の「不審者対応」研修等も検討していく必要があると思います。また、緊急時の避難につなげるためにも、日常的に廊下階段の歩行方法や登下校の帽子の着用等、継続して指導を行い安全に対する意識を高めています。

【健康・体力の保持・増進】について

○ 現状と課題

- 体力合計点は全国平均を上回っているが、「20mシャトルラン」と「ボール投げ」の結果が全国・本市平均よりも低い。
- 生活スタイルは改善されつつある。保護者・児童に対して、今後も早寝・早起き、朝食摂取の重要性を伝えていく。

○ 中期目標・年度目標

- 平成27年度末の「20mシャトルラン」の記録を、6月の記録より向上させる。
- アンケート…「早寝」「早起き」「朝ごはん」の肯定的な回答が80%以上

〔目標達成のための取組みについて〕

〈体力向上への支援〉

休み時間・放課後の運動遊び、授業時に体力を高める運動を実施する。

評価

B

○これまでの進み具合

休み時間に運動場で遊び体を動かす児童は多くみられます。しかし、外で遊ぶ児童は固定化されている傾向にあります。

体育の学習のはじめに5分間走やサークルトレーニングを取り入れたり、体育カードを用いたりして、児童が意欲を持って活動できるように工夫して、体力向上に努めています。しかし、まだ十分とはいえません。

○ 今後の改善点

休み時間、運動場へ出ない児童への声かけや手立ての工夫が必要です。

後期は、なわとびやかけ足など体育カードを活用し、体力向上に努めます。

〈健康な生活習慣〉

遅刻に関して日々の指導、家庭への協力要請、学校で十分に活動する。

評価

B

○これまでの進み具合

学校生活の様々な場面で機会を設け、「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発に努めています。

「早起き・朝ごはん」については成果が出てきていますが「早寝」には課題があります。

○ 今後の改善点

家庭・PTAと連携を強くしながら、今後も継続的に児童に啓発・指導していきます。

今年度の全国学力・学習状況調査の結果について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、2015（平成27）年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動に協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

(1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- 主として「知識」に関する問題（A問題）
- 主として「活用」に関する問題（B問題）

※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を
一體的に出題

(2) 質問紙調査

- 児童に対する調査
- 学校に対する調査

3 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童 本校では第6学年10名

4 調査の結果

【結果の概要】

○ 本校の平均正答率は、国語A・国語B・算数A・算数B・理科ともに、全国・大阪市平均を下回りました。

○ ここ2～3年の結果を見ると、言語活動の充実を中心とした、国語・算数の授業改革の効果が徐々に現れてきたと考えられます。

【国語A】

- 「書くこと」の正答率は、全国平均を上回っています。
- 「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の正答率は、全国平均を下回っていました。特に、「話すこと・聞くこと」は課題が見られました。

【国語B】

- 「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」にあたる設問はありませんでした。
- 「書くこと」、「読むこと」の正答率は、全国平均よりも下回っています。特に、国語Aでは全国平均を上回っている、「書くこと」に課題が見られました。

【算数A】

- 「数量関係」の正答率は全国平均を上回っていました。また、「図形」の正答率は全国平均に迫っていました。
- 「数と計算」「量と測定」には課題が見られました。

【算数B】

- 全領域で課題が見られましたが、特に「量と測定」は算数A・Bともに課題が見られました。また、算数Bでは無回答率が高く、知識の活用に不十分さが見られました。

【理科】

- 全領域で課題が見られ、さらに理科教育の推進の必要性があります。

【児童質問紙】

- 家庭での生活について
 - ・ 朝 食の摂取率は、全国・大阪市平均と大きく変わりません。
 - ・ 「毎日、同じぐらいの時刻に起きる」という習慣は、全国・大阪市平均と比べて下回っています。
 - ・ 月～金曜日に、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンのゲームを含む）を3時間以上している児童の割合が、大阪市・全国平均の2倍以上になっています。
 - ・ 月～金曜日に、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを2時間以上している児童の割合が大阪市・全国平均の2倍以上になっていました。
 - ・ 「新聞を読んでいますか」と言う質問に対しても、多くの児童が「ほとんど、または、全く読まない」と回答しました。

○ 家庭での学習について

- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という質問に対して、1時間以上しているという回答の割合が大阪市及び全国の結果よりも下回っていました。
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という質問に対して、1時間以上しているという回答の割合が、大阪市及び全国の結果よりも下回っていました。
- 「学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか」という質問に対しては、ほとんどの児童が「学習塾に通っていない」という回答でした。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童は大阪市及び全国の結果よりも下回っていました。

○ 自尊感情について

- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という質問に対して、肯定的な回答と否定的な回答が、半々に分かれました。
- 「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、大阪市及び全国の結果よりも下回っていました。
- 「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」という質問に対しては、全員が肯定的な回答でした。
- 「学校のきまりを守っていますか」という質問に対する肯定的な回答は、大阪市・全国よりも下回っていました。



【各教科と相関の強い質問】

○ 各教科の平均正答率と質問紙の回答をクロス分析すると、家庭での生活との関係で次のようなことが分かりました。

- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の方が、「国語B」の平均正答率が高い。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」と言う質問に対して、読書時間が長いほど、「算数A」「算数B」の平均正答率が高い。
- 「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という質問や「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」という質問に対して、学習時間が長いほど「算数B」の平均正答率が高い。
- 「読書は好きですか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童ほど平均正答率は高い。



5 今後の取組

- 「読む」力の育成…学校図書館の環境整備と読書活動の活性化に努めます。読んだ内容が理解できるよう指導していきます。
- 「話す」・「聞く」力の育成
 - ・ 「話す」・「聞く」意欲づくり…一人一人が、「話したい」、「聞きたい」と思えるような、学級集団や異年齢集団を作っていきます。(Q-Uの効果的活用)
 - ・ 「聞く」姿勢づくり…Pinto クッションを引き続き活用します。体幹を鍛え、正しい姿勢で座れるようになることをめざします。
 - ・ 「話す」機会づくり…児童の発表の場を多く設定するとともに、事前の指導を充実させます。音楽科の研究を通して、児童の表現力の高揚を図ります。
 - ・ 「話す」「聞く」活動を通して、その内容理解が深まるような授業づくりをさらに行っています。
- 「書く」力の育成…各学級で、自分の考え方や、身の周りのできごとを書くような取組を各教科で展開し、児童の書く力を高めています。
- 人権総合学習で学んだことを、しっかりまとめる活動を通して、児童の書く力を高めています。
- 算数科の基本問題に多く取組むとともに、「知識の活用」にあたる問題などにも取組んでいくようにします。
- ぐんぐんタイムの取組を充実させ、基礎・基本の学力の育成に努めます。
- 学校だよりで家庭学習の重要性の啓発に努めます。
- ICTの活用をより進めていき、考える授業、発見する授業、わかる授業をつくっていきます。
- 教室環境の「ユニバーサル化」をさらに進め、子ども一人一人に応じた支援が行っていることをめざして、取組んでいきます。